

開催日	内 容
2023年12月 4 日	第 4 回開設準備委員会 ・ 学校名の選考について ⇒ 校名候補を3点に絞り込み ・ 学校応援部会、教育課程検討部会の協議状況 ・ 校歌・校章について ・ 校舎整備の概要（案）について
12月18日	教育課程検討部会 第1回ワークショップ
12月22日	定例教育委員会 ⇒ 学校名を「竹野学園」とする方針を決定 ※議会で正式決定するまでは（仮称）を付記
2024年 1 月 9 日	Webでの義務教育学校の教育内容意見募集（～1月22日）
2 月 7 日	教育課程検討部会 第2回ワークショップ
2 月21日	保護者対象 小中一貫校検討状況報告会 （参加者 48名）
3 月18日	第2回教育課程検討部会 ⇒ 特色のある教育内容等に対する提案 とりまとめ

上記のほか、学校応援部会（制服検討委員会）での協議等あり

1

学校応援部会（制服検討委員会）での制服の検討



学生服のメーカーを講師に招いての
制服勉強会 （11/27）



2

- ✓制服の検討のためPTA役員等と「制服検討委員会」を設置
- ✓「制服は必要か」から検討を始め、学生服のメーカーを講師に招いての制服勉強会を開催する等、生徒、保護者、小学校、地域の方々の声を参考にしながら検討を進めてきた
- ✓「（仮称）竹野学園」の開校に合わせ、2025年度（令和7年度）新入生から新制服を導入することとした
- ✓デザインの最終決定の際には、竹野中学校の生徒と保護者、竹野小学校、竹野認定こども園の保護者を対象としたアンケートを実施

制服導入の考え方

- 制服は「必要」との意見が大半
- ジェンダーフリーで、男女で着回しが可能なもの
- 費用面、取扱面での負担軽減を考慮（家で洗える等）



教育課程検討部会での検討

資料 3-1

地域で育てたい子ども像の共有のためのワークショップ



第1回 ワークショップの様子 (12/18)



【テーマ】

- ・義務教育学校で どんな力をつけて欲しいか
- ・子どもたちに どんな学習内容を学ばせたいか ほか

教育課程検討部会での検討

資料 3-1

地域で育てたい子ども像の共有のためのワークショップ

第2回 ワークショップの様子 (2/7)



兵庫教育大学大学院
安藤先生による講演



【テーマ】子どもたちにどんなことを学ばせたいか
～ワークショップからの提言～

第2回ワークショップで 出された意見

子どもたちに
どんなことを学ばせたいか

川下り
塩づくり

防災

地域のPR・観光案内（英語で）

英語力（コミュニケーション）

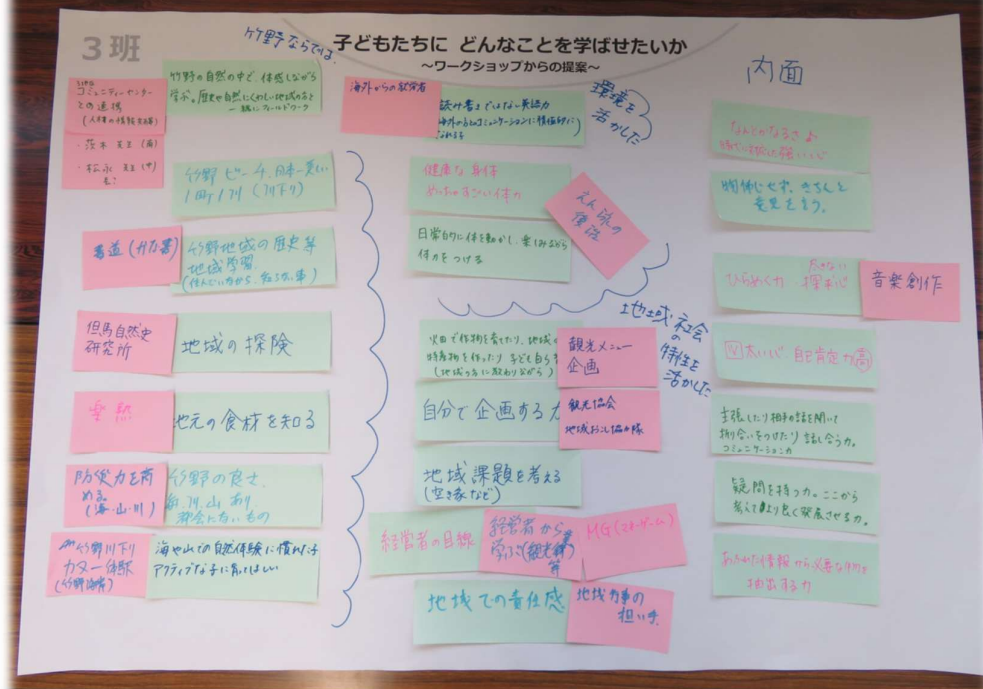
しめ縄づくり
なごみの灯り

疑問を持つ力
ここから考えてより良く発展させる力

・・・e.t.c



ワークショップの結果
はこちら（市HP）



7

ワークショップで出された意見を整理すると...

子どもたちに
どんなことを学ばせたいか

★竹野ならではの学び

- ・竹野の自然（山、海、川）体験からの学び
例：塩づくり、いかだ下り
- ・竹野の歴史、観光、食材、防災等の学び
例：しめ縄づくり、地域のPR・観光案内
- ・地域コミュニティとの連携

・・・e.t.c

★どのような力をつけてほしいか

- ・ひらめく力、尽きない探究心
- ・図太い心、自己肯定感
- ・物おじせず意見を伝える力
- ・英語力（コミュニケーション）
- ・情報活用力
- ・疑問を持つ力
- ・ここから考えてより良く発展させる力

・・・e.t.c

8

例えば

教科等横断学習 ～STEAM教育～

単なる体験活動にとどまらず、
教科との関連付けを行うことで深い
学びや発展性を意識づける

ワークショップでの意見を教科と関連付けると…

いかだ下り、竹野川

⇒ 環境問題、地理、地学、防災

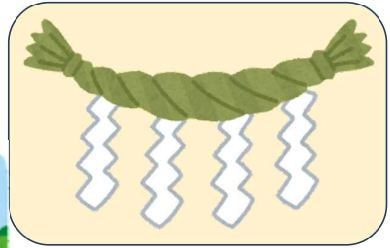
しめ縄づくり

⇒ 歴史・伝統・風俗（信仰）

塩づくり

⇒ 塩分濃度（理科）

という考え方について…



STEAM

- Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（芸術・リベラルアーツ）、Mathematics（数学）による文理融合の学び
- STEAMの各分野が複雑に関係する社会、単一の分野では解決できない複雑な時代

9

★これからの子どもにつけたい力

平成29・30・31年改訂学習指導要領より

学 力
(知識・技能) ➡ 「資質・能力」

【ポイント】

- ①何を理解しているか、何ができるか
- ②理解していること（知識）、できること（技能）をどう使うか
- ③どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか

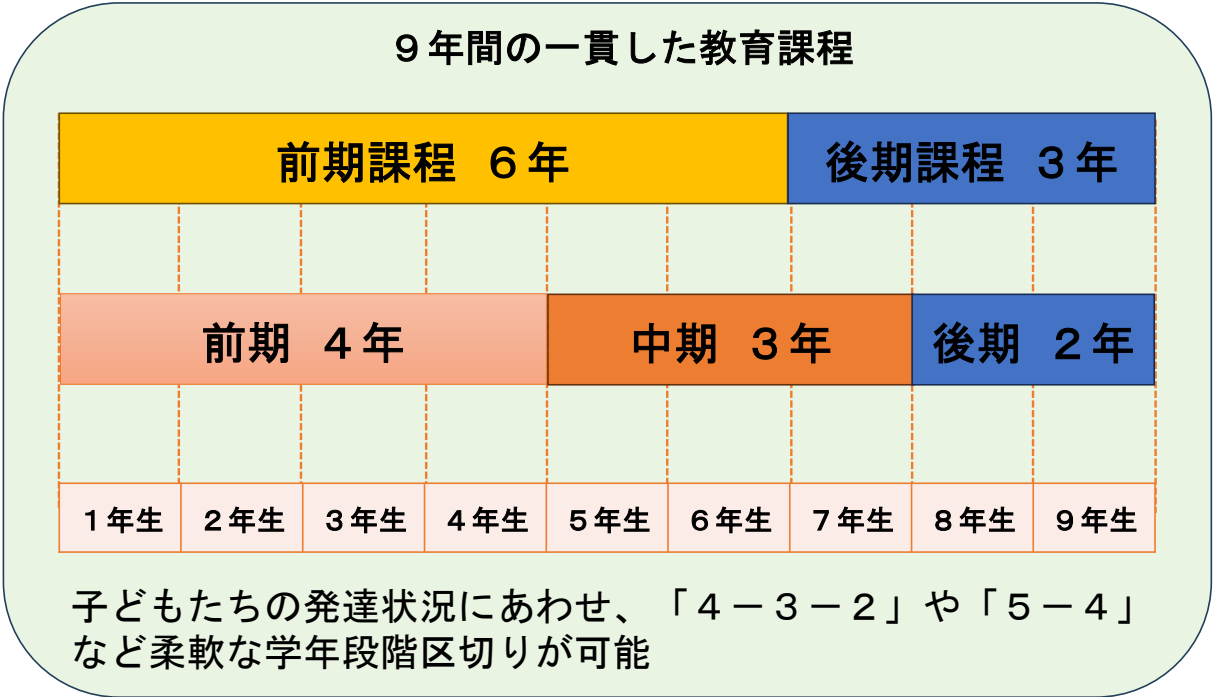
～（仮称）竹野学園ならではの特色のある教育について～

自然・文化・歴史等、竹野地域の素材を活用し、体験だけでは終わ
らせない、これまで以上に教科等横断学習を発展させた
“竹野版のふるさと学習”が望ましい

- 【主な意見】
- ・カリキュラムの幹になる部分はふるさとの学習であり、そこから過去や未来も含めて目を向ける、深めていく事を手助け出来るような学校のかかわりを。
 - ・これまでから総合的な学習を実施してきたが、体験だけで終わらずに、そこからどう次に繋げるのか。
 - ・地域の方にも手伝ってもらい、体験だけで終わらないような流れを組み立てる。
 - ・学校というのは、将来社会に出てより良い人生を生きるためにある場所。探究が大切。これまでの知識・技能だけではなく、課題を見つけて深く学ぶこと。教科等横断型教育の取組みを明確にするために、教科等横断学習（STEAM教育）があるのでは。

11

義務教育学校の学年段階の区切り（例）



12

～学年段階の区切りについて～

**学年段階の区切りは「4-3-2」が望ましい
(ただし、検証が必要)**

【主な意見】

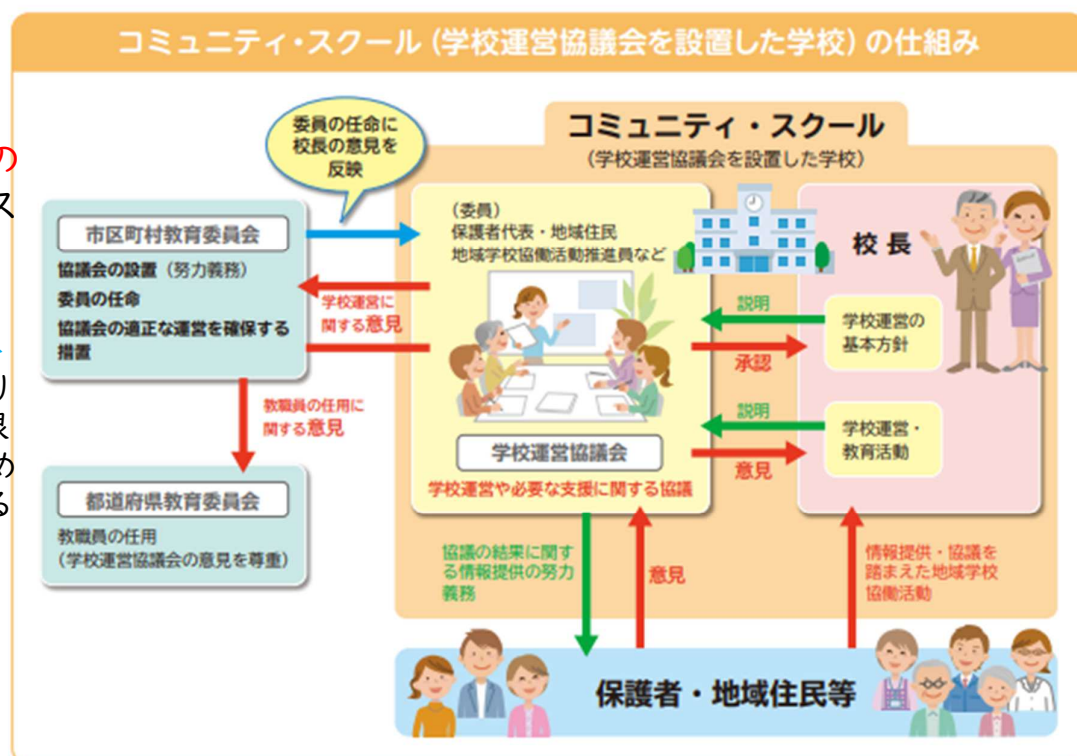
- ・ 4年生から5年生で勉強が難しくなるなど、発達段階のところで4-3-2という分け方が“なるほどな”という場面は沢山ある。分け方としては妥当ではないか。
- ・ リーダーシップをどうとらせるかが大事。中学1年生までで区切って、最上級を中学2～3年生とするのはよい。ただし、小学4年生がどのようにリーダーシップをとるかを考える必要がある。
- ・ 6-3制と混同しないように、誤解を与えないようにしなければならない

13

コミュニティ・スクールとは

「地域とともにある学校」の形態として、コミュニティ・スクールの展開が必要

学校運営協議会＝合議体
法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議体の機関



学校と地域がパートナーとなることで・・・

